

臨床研究へのご協力をお願い

東京医科大学 八王子医療センターでは、下記の臨床研究を東京医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の許可のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては患者さんの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように個人のプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究にカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。不参加のお申し出があった場合も、患者さんに診療上の不利益が生じることはありません。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

[研究名称]

甲状腺に含まれるヨウ素の定量に関する研究

[研究の背景]

原子力災害によって放射性物質が環境中に放出されると、放射線被ばくによる健康被害のリスクが生じます。放射性ヨウ素はチェルノブイリ原発事故や福島第一原発事故によって放出された放射性物質で、体内に取り込まれると甲状腺に集積します。チェルノブイリ原発事故では、放射性ヨウ素の吸入や特に牛乳に含まれていた放射性ヨウ素の摂取による内部被ばくで小児甲状腺がんが誘発されたと考えられています。福島第一原発事故時に 18 歳以下であった福島県民を対象とした甲状腺検査では甲状腺がん、あるいはがんの疑いと診断されたケースが報告されています。一方で、福島第一原発事故による放射性ヨウ素 (^{131}I) の放出量はチェルノブイリ原発事故時の 9 %程度と少なく、さらに放射性物質に汚染された食品の流通は厳格に規制されていたために、チェルノブイリ原発事故と比べて福島第一原発事故による被ばく線量は低いと考えられています。甲状腺検査結果と放射線被ばく影響との関連性を明らかにするためには、医学的適応で摘出された甲状腺組織において、 ^{131}I による甲状腺内部被ばく線量を明らかにすることが必要とかがえられます。東京医科大学八王子医療センターで病理解剖された症例のホルマリン固定甲状腺組織を利用させていただき、対照症例(非被ばく症例)として分析します。病理解剖で摘出された甲状腺の病理診断後の残余検体を使用します。

[研究の目的]

福島県民健康調査の結果、診断・治療の目的で手術的に摘出された甲状腺に含まれる放射性ヨウ素を定量し、甲状腺の放射線被ばく状況を推定します。

[研究の方法]

対象となる方

東京医科大学 八王子医療センター 病理診断部

2018年1月1日～2020年10月31日の期間になくられて、病理解剖された方

研究期間

研究許可日 ~

2023年3月31日

利用するカルテ情報

- 1) 年齢・性別・身長・体重・生活習慣・出生地域などの基本情報
- 2) 疾患名・重症度・疾患の進展に関する情報
- 3) 診断に必要な検査(血液・尿・放射線・生理学・組織・病理学・他)の結果
- 4) 全身状態・日常生活動作・生活の質に関連する情報
- 5) 行った治療の内容とその変更内容
- 6) 治療開始と中断・終了日時に関する情報
- 7) 発生した有害事象の種類・重症度
- 8) 併存症の有無と治療の内容
- 9) 生死や疾患の増悪・軽快の日時に関する方法

これらのカルテ情報を用いて解析を行います。

情報の管理

情報は匿名化を行って、直ちに個人が判別できる情報は含まれないよう加工されます。匿名化された情報から研究対象者を識別できる対応表は、研究責任者の指示に基づき施錠された場所またはパスワードで保護された電子情報として保管されます。保管期限は研究終了または論文公表から5年間です。

診療科(部署)名	病理診断部
情報の管理者名 (研究責任者)	中津川宗秀

[研究組織]

	職名	氏名	研究における役割
研究責任者	准教授	中津川宗秀	検体の提供

[問い合わせ先]

相談窓口	担当者名	中津川宗秀
	住所	東京都八王子市館町1163番地
	施設名	東京医科大学 東京医科大学八王子医療センター
	診療科(部署)	病理診断部
	電話番号	042-665-5611 内線 2115 (平日 9:00~17:00)